



19950310
[9410]
総19号
発行
桂坂
自治連合会
広報編集部

自治連合会の最後の役員会から

みんなの力と知恵とで

「桂坂」を活力ある街に

去る三月四日、自治連合会の年度最後の役員会が開かれました。役員の方々が一年間ご苦労なされました。当日は連合会の企画した行事、外部団体主催の行事に関する報告と各パートの活動報告がありました。

その後引き続き各自自治会の会長を務めながら連合会でも活躍された皆さんの体談や連合会の活動についての感想などが述べられました。そのうちの話題を幾つか拾います。

桂坂には、各町内に自治会があり、また各種団体がなつたが、自治会の活動が選ばれ役割を引受けることになったが、自治会の活動を重大です。

阪神大震災

義援金のご協力のお礼

桂坂学区自治連合会
日赤・西京地区 桂坂分団

日赤・西京地区桂坂分団
この度の阪神大震災に際し被災者の方々の義援金のご協力をお願いしましたところ、趣旨にご賛同ご理解をいただき、

三、九〇一、一八八円
という多額の善意が集まりました。ここに丹心より厚く御礼申し上げます。

義援金
三、九〇一、一八八円

かえで	七六〇〇円
さつき	五三、一八円
しらかば	三三、〇〇円
はなみずき	三六、〇〇円
あかしあ	三三、〇〇円
ぼぶら	三三、〇〇円
ひいらぎ	四三、〇〇円
つばき	三〇、〇〇円
けやき	一五、〇〇円
峯ヶ堂一丁目	二四、〇〇円
峯ヶ堂三丁目	三三、〇〇円

以上

平素は大枝中学校教育の推進のため格段のご支援を賜りまして誠に有難うございます。

さて、大枝中学校の最近の様子を地域の皆様方にも知っていただきたく思い、その主なものを簡易書きでまとめてみました。何かのご参考にしていただければ幸いです。

① 平成六年一月二〇日の全市英語学習発表会で銀賞を授賞。

② 平成六年春と秋に希望者を対象として行った英語検定試験(英検)で、一年生は、5級七名、4級一名、二年生は5級十三名、4級二十三名、3級が二名、三年生は4級六十名、3級四十四名が合格。

③ 七月一日(水)に行つた適応マラソンで、寒風の中をゴールインした生徒たちは、PTAによる心尽くしの、温かい「豚汁」を頂きました。

④ 阪神大震災に対する義援活動を一月二三日(月)より生徒会・PTAで開始。一週間で計 四五七、八六三円の募金をして頂きました。

⑤ 続いて二七日より、被災した神戸の生徒たちのために、鉛筆、ノート、靴など学用品のご提供を保護者宛にお願いし多くの品物を頂きました。

⑥ 二月五日(日)の午後、明德商業高校で、西京区の七校に成章高と明德商高が加わり、「プラスパンド部の合同演奏会」が

あり、本校からも参加しました。

一つのエピソード

大枝中学校では、語学力や発音・英会話力を一層高めるために、春と秋の二回土曜日の午後に行われる文部省認定の「実用英語技能検定試験」(英検)を受けようとして励んでいます。

「英検」は1級から5級まであり、一応の目安は、5級は中一終了程度、4級

とありますが、それから二日程たった日の朝、校門前の「あいさつ運動」中に、また「ここに顔」の生徒が私に近寄ってきたので、また良い報告だろうと思つてみると、「先生、ダメだったけど、いろいろご指導有難うございました」という答え。一瞬、私は絶句し、

やがて、すがすがしい気持ちと感動が私の胸の中に広がっていきました。「残念だったけど、次のチャンスはいくらでもあるし、懸命に努力したことが今後に生かされると信じているよ」というと、「ほくもそう思う」と答えてくれました。

彼の表情、態度から将来絶対に伸びると確信させる何かを感じながら、職員室へ戻ったのですが、教師になつて良かったと、しみじみと思う出来事でした。

4、5級は、筆記試験のみ、3級は筆記と面接による会話能力試験があります。私(山崎)も生徒の受験一週間前から、応援の気持ちも込めて、早朝、または放

課後の時間を活用して「面接」指導をしました。試験の結果が判明して二三日後のことです。廊下で何人かの生徒が、私の顔をみると、満面に笑みを浮かべながら駆け寄ってきて、「先生、英検、受かりました。先生のお蔭です」と報告してくれるのです。「いやそれは君の努力があったからだ」と答える私の顔も嬉しさのためにゆるみっぱなしになっていくのに気がつきました。

富奥さんの少女の頃はまだ「障害者に対する認識や理解」は薄く、学校にも行かせてもらえず、家に閉じこもらざるを得ない時代でした。その後、姉妹の縁談に自分の存在が影響するのを知り、また友人が次第に自立していくのを見るにつけ自然に「自分の境遇についての理解と納得の心境」になると同時に「自立についで強い思い」も生まれ

大枝中学校では 今

大枝中学校 校長 山崎 嘉久

桂坂社会福祉協議会主催「講演会」より

一人暮らしの人生

ある視力障害者の生き様

ある視力障害者の方の生き様を聞く会が去る二月二六日、香掛寮において開かれました。

講師の富奥ケイ子さんは現在、上桂で自立してマツサージ・整体の仕事をしておられ、視覚障害者協会・西京支部長としても活躍中の方です。

富奥さんの少女の頃はまだ「障害者に対する認識や理解」は薄く、学校にも行かせてもらえず、家に閉じこもらざるを得ない時代でした。その後、姉妹の縁談に自分の存在が影響するのを知り、また友人が次第に自立していくのを見るにつけ自然に「自分の境遇についての理解と納得の心境」になると同時に「自立についで強い思い」も生まれ

視力回復の手術を受けてもおもわしくなく、ボランティアの協力で点字を身につけた富奥さんは盲学校に三〇代後半で入学しましたが、点字は子供の時の柔らかい皮膚と感性が何よりも必要で、非常に苦労された。しかし、その頑張りのおかげで、非常に苦労された甲斐あって、衛生学・看護学・生理学などの専門学科も人の半分の六年間でマスターされたそうです。

これまで人の善意・親切に助けられ支えられてきたが、今後は「家に閉じ込め

られていたり、知らぬがために自分の能力を伸ばすことのなかった人達」に「人間としての生きる喜び」を教えてあげたいと願い、実践される富奥さんは、ご自身の気持ちの動きをも照射しながら次のような体験を例話として話されました。

富奥さんのお話は、ボランティア活動を志す私たちに大変参考になりました。

富奥さんのお話は、ボランティア活動を志す私たちに大変参考になりました。



夢を語る

夢の「遊び場」

さつき自治会 坂本 淳子

私はこの桂坂に移る以前、特に小学生の遊び盛りの時期を上賀茂の新興住宅地で過ごした。とはいえ、その環境は桂坂とかなり違い、遊び場と呼べるスペースが極端に少なかったように記憶している。

まず家を一步出るとすぐ急な坂道で道幅も狭く、ボール遊びもままならない。公園にしても、申し訳程度に造られた殺風景な小さなものが一つあるばかりだったので近くの造園業の石置場を「お城」がわりに遊んで怒られた。だから五年前に桂坂に越えてきてこの環境を目にし

桂坂卓球大会

体育振興会 越久村 真一

二月五日(日)、桂坂小学校の体育館で、第四回桂坂卓球大会が行われました。

各自自治会の体育委員さんが選手集めに奮闘していたのだから、参加者が足りなくなるほどたくさんの方が参加されました。六〇数名の出場選手、応援のご家族や体育委員さんを含めると一〇〇名近くの人で賑わいました。中でも、体育委員さんからの強い誘いで出て下さった初心者の方には心から感謝したく思います。東地区の方や「つばき」

の方もおられました。主に一〇人から二人でチームを編成した六自治会の団体戦で行われました。一位は、例年通り「かえで」、二位は「さつき」、以下「あかしあ」、はなみずき、「ぼぶら」、「しらかば」の順でしたが、二位の「さつき」が三勝二敗のフルセットで、やっと「しらかば」に勝つという二位以下は大混戦でした。

体育館 練習に開放

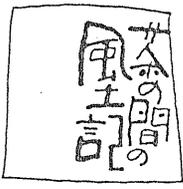
毎週土曜日、午後七時から九時まで、桂坂小学校の体育館を卓球の練習に開放しておりますので、ぜひいらして下さい。

けやき自治会

三月二日 発足

大枝山町に新しい自治会が誕生します。九番目の自治会です。これまで連合会の活動にも色々ご理解・協力をいただき、誠にありがとうございます。今後のご活躍とご発展を祈念いたします。

この石標の向かいの小さな鳥居をくぐったところにあるのが有名な首塚大明神です。源頼光が酒天童子の首を京へ持ち帰る道中、このあたりで急に首が重たくなり、動かすこともできず仕方なく、ここに放置して行ったとも、また切り落とした首が火を吹きながら京へ飛んでいく途中でこの地に落ちたとも伝えられています。



旧山陰街道 IV

大枝の地に今も桓武天皇の深い思いが残されているような不思議な思いにとらわれます。

この関所址と小畑川を隔てて反対側、国道9号線の西に「連華の路」があります。昭和三四年(二九五九)日蓮宗の霊地として建設され、入口には、昭和四五年(一九七〇)に立てられた身延山の日静上人筆による交通安全祈願の石塔があります。

その昔、山陰道は、現在の仏舎利靈園から京都市清掃工場付近を経て、この地を通り、老の坂トンネルの西に抜けていたそうです。

この石標の向かいの小さな鳥居をくぐったところにあるのが有名な首塚大明神です。源頼光が酒天童子の首を京へ持ち帰る道中、このあたりで急に首が重たくなり、動かすこともできず仕方なく、ここに放置して行ったとも、また切り落とした首が火を吹きながら京へ飛んでいく途中でこの地に落ちたとも伝えられています。

前回は、大枝と桓武天皇とのつながりについてお話ししましたが、今回は、その桓武天皇の母、高野新笠の大枝陵からスタートします。場所は、前々回ご紹介しました安正寺から西へ少し行つた伊勢講山の急な勾配を登ったところです。桓武天皇の妃、藤原旅子の眠る宇波多陵、そして母の眠る大河内境の大坂山であるとい

う説もありますが、この朽ち果てた祠の前で目をつぶれば行き交う旅人の姿が目に見えます。

その道を行きますと「従是東山城國」(これよりひがしやましろのくに)と刻んだ石標があります。ここがその昔、丹波と山城の国境だったのです。

今なお、薄暗い杉木立の中、首塚の前に立っている、老の坂峠の山賊でも現れて来そうな気がして、思わず後を振り返りました。

この石標の向かいの小さな鳥居をくぐったところにあるのが有名な首塚大明神です。源頼光が酒天童子の首を京へ持ち帰る道中、このあたりで急に首が重たくなり、動かすこともできず仕方なく、ここに放置して行ったとも、また切り落とした首が火を吹きながら京へ飛んでいく途中でこの地に落ちたとも伝えられています。

少年補導委員会主催 耐寒ハイキング

桂坂支部 馬江 芳雄

例年恒例の冬季に行っている行事を今年は「洛西散策の森」をハイキングすることとなりました。今年には阪神大震災のあとでもあり自粛するかどうかという意見もあつたのですが、親子のふれあいと、ちよつぴり運動不足の解消のため予定通り実施することとなりました。

最初の坂は思いの外きつく、それぞれが思い思いのペースでの登山?となつてしまいましたが、途中天気も回復して少々汗ばむくらいで残雪のあるコースを頂上まで一気に登り小休止、それぞれ持参のお茶やあめをほおばり、足元に注意しながら下りは一気に下山。そのまま小学校まで全員、無事帰ってきました。

「子どものための世界サミット・世界宣言」の実現を求めて、峰ヶ堂の中学2年生・木場紗綾さんがボランティアとして署名活動をおられます。

出発前から用意し長い時間をかけて作ってもらった豚汁のおいしさに用意した材料はあつという間に無くなつてしまふ腹の中!おかわりのもらえなかつた人は残念でした。今回は、体育振興会の卓球大会と日が重なり予定を立てる段階での調査不足で参加出来なかつた方には申し訳ありませんでした。反省!これに懲りずこれから行事への参加をお待ちしています。

この「世界宣言」は一九九〇年九月、国連に七ヶ国の国家元首が集まり「子どもにより良い未来を」のテーマで開催されたサミットにおいて、「子どもの生存、保護および発達に関する世界宣言」として採択されたものです。

戦争や貧困、飢餓のために毎日、三万五千人もの子どもたちが死んでいくという厳しい現実は今なおなくなりません。木場さんら若い人たちは、この現実を見据えて「子どもが飢餓を終わらせよう」(ユース・エンディング・ハンガー)のスローガンの下に「子どもにした約束を守って」と願いながら署名など様々な活動を展開しています。

今年八月には、ニューヨークで第2回の「地球子ども会議」が開かれます。因みに第1回は、京都の国際会議場で一九九一年に開催され、六〇ヶ国から若者が集まりました。「飢餓から解放された世界を創り出す若者たちの「共同戦線」です。色々な国の、様々な分野の人たちの連帯で次第に参加者も増えていくことでしよう。

文化 張慶光の言葉 「コンサートのついで」 三月二十五日(土) 午後三時開演 西文化会館ウエスティン 西宮上林町 三二二

第七二回 日文研フォーラム 三月一四日(火) 午後二時~四時 国際交流基金京都支部 西宮上林町 畜産施設 四三三 義精神 王 家 驊 主催 西宮ふれあい事業 実行委員会 定員六〇名 無料